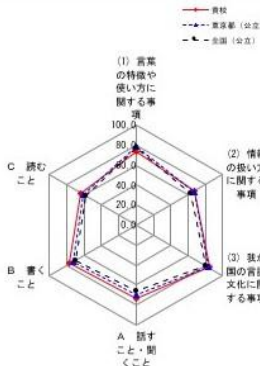


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析

江戸川区立平井小学校

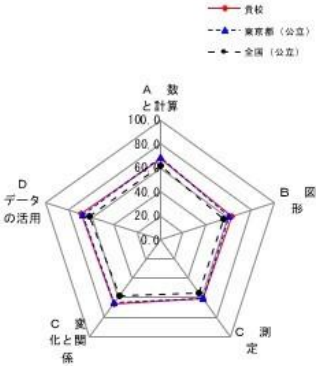
国 語		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴校	東京都(公立)	全国(公立)
学習指導要領 の内容	知識及び技能	全体	14	72	70	68.8
		(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	2	73.2	77.9	76.9
		(2) 情報の扱いに関する事項	1	69.0	66.9	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	84.5	83.8	81.2
	読解力、 読解力の 差読解力等	A 話すこと・聞くこと	3	73.2	69.9	66.3
		B 書くこと	3	77.0	72.4	69.5
		C 読むこと	4	69.4	61.0	57.5
		知識・技能	4	74.7	76.6	74.5
		思考・判断・表現	10	70.4	67.1	63.8
		主体的に学習に取り組む態度	0			
評価の観点	問題形式	選択式	9	70.4	68.7	64.7
		短答式	3	79.4	80.0	78.5
		記述式	2	65.5	59.3	58.8



【現状把握と授業改善のポイント】

- 「言葉の特徴や使いに関する事項」の正答率は、73.2%の結果であった。都ー4.7%、全国ー3.7%である。漢字を文の中で正しく使うことの項目が比較すると低い。
⇒既習漢字について、ノートや作文指導など、日常的に活用、指導し、身に付けさせていく。
- 「読むこと」の正答率は、63.4%の結果であった。学習指導要領内の内容では、一番低い項目である。
都+2.4%、全国+5.9%であり、全国的にも低い項目となっている。
⇒要旨を捉え、必要な情報を読み取る問題に取り組むことを習慣づけ、読むことが楽しいと感じる活動をしていく。

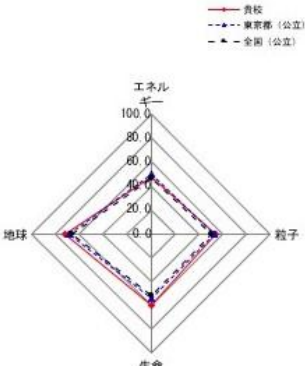
算 数		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴校	東京都(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	A 数と計算	全体	16	64	64	58.0
		A 数と計算	8	68.0	68.3	62.3
		B 図形	4	82.8	81.2	56.2
		C 測定	2	61.3	60.5	64.9
		D 変化と関係	3	66.0	64.9	57.5
評価の観点	知識・技能	知識・技能	9	70.7	70.9	65.5
		思考・判断・表現	7	56.0	54.4	48.3
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	問題形式	選択式	6	74.2	78.5	67.2
		短答式	6	87.7	89.3	84.0
		記述式	4	44.1	40.7	34.9



【現状把握と授業改善のポイント】

- 分数について、通分することで単位分数が同じ数になることを理解している児童が少ないのではないかと考える。
⇒数直線など視覚的に捉えることができるものを積極的に用いて指導する。
- 算数用語が出てくる問題について、「もにする数」という用語を理解していないため、解答することができない児童が多くなっている。
⇒「もにする数」「比べる数」等の算数用語を意識して指導するとともに、児童にも積極的に使わせる。
- 数や言葉で説明する問題について、グラフを正しく読み取ったり正しく計算したりすることはできるが、どうしてもその答えになったのかを言葉で表現することができない児童が多い傾向にある。
⇒ノートで式・記号・図などを用いて表現するとともに、言葉で説明する時間を設ける。(ペア・グループ・全体)

理 科		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴校	東京都(公立)	全国(公立)
学習指導要領 の区分・領域	A区分	全体	17	62	60	57.1
		「エネルギー」を柱とする領域	4	47.9	49.9	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	54.5	53.7	51.4
		「生命」を柱とする領域	4	59.8	54.1	52.0
	B区分	「地球」を柱とする領域	6	72.2	69.1	66.7
		知識・技能	8	57.7	57.7	55.3
		思考・判断・表現	9	65.4	61.2	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
	問題形式	選択式	11	59.1	57.9	54.7
		短答式	4	70.1	70.6	69.7
		記述式	2	59.8	46.6	45.2



【現状把握と授業改善のポイント】

- 「エネルギー」を柱とする領域において、選択肢の違いに注目しきれず、間違っ了解答を選択している傾向がある。
⇒設問にある選択肢の違いについて、どこが違うのか、なぜその選択肢は正解なのかキーワード等に注目して違いを見つけられるように指導を行う。
- 「粒子」を柱とする領域において、知識を基に概念的に捉えられていない様子が見られる。
⇒単元の学習内容にかかわる「言葉」についてしっかりと定義させる。
・「温められて」水蒸気となるのではなく、「蒸発して」水蒸気となる、受粉と受精の違いなど、言葉の定義を正しい指導を行う。

【児童質問紙 回答結果集計より】

自己肯定感について・友達関係は良好ではあるが、困りごとなどをいつでも相談できる大人がいないことで、学校に行くことに楽しみをもてなかったり、自分によいとこ
ろがあると感じられなかったりする子が多いことが原因と考えられる。大人と児童との心理的距離感を縮めていけるように、こちらから意識して声を掛けるようにしてい
く。

主体的な学びについて・ICTを活用しながら自分のペースで理解しながら学習を進める、分からないことをすぐに調べ、情報を整理し、プレゼンテーションを作成するこ
とはできる。一方、発表の場面で友達と考えを比べたり、共有したりすることが苦手な様子が見られる。ミライシードのオクリンク・パドレットなどを活用し、互いの
意見を比較検討・共有していけるような学習活動の機会を増やしていく。また、効果的な発表の仕方について指導をしていく。総合的な学習の時間に取り入れたり、カ
リキュラムマネジメントで教科間でのつながりを意識した指導を検討していく。

対話的な学びについて・授業内での「話し合う」活動を意識して取り入れ、話し合う視点を与えながら内容を深めていけるように指導を積み重ねていく。

【家庭・地域への働きかけ】

基本的生活習慣について

○毎朝同じくらいの時刻に起き、朝ごはんをしっかりと食べて登校してくる子(93%)

△毎晩何時くらいの時刻に寝ている子(65%)と、全国の値よりー16.2%となっている

⇒受験勉強のために塾に通ったり、宿題に取り組む時間が遅かったりするなど原因と考えられる。家庭での積極的な声掛けや取り組みをお願いしていく。